▲ハイ、いい顔。木村心華ちゃん（左）、柚音ちゃん児参式　（11月４日）

慧光

金光寺寺報
第２０９号
発行所　金光寺
宮崎県西臼杵郡
五ヶ瀬町大字鞍岡
５９２７番地
☎　０９８２
８３－２３３８

今月法語カレンダーのことば

聞というは如来のちかいの御なを信ずともうすなり

今月は『尊号真像銘文』からの言葉です。浄土真宗については、「聞の宗教」あるいは「聞名の宗教」という言葉であらわされる場合があります。

『仏説無量寿経』本願成就文には「あらゆる衆生、その名号を聞きて信心歓喜せんこと、乃至一念せん、至心に回向したまへり。かの国に生れんと願ずれば、すなはち往生を得、不退転に住せん。ただ五逆と誹謗正法とをば除く」と、阿弥陀仏の名を聞くことの大きな意味が説かれています。そして、「聞其名号」（その名号を聞きて）の語に続いて「信心歓喜」とありますように、聞くことと信ずることとは一つであることが示されていることも大事な点であるといえます。

阿弥陀仏は、光明無量・寿命無量の仏です。煩悩に覆われた私の眼には見ることのできない仏です。そこで願いのとおりの仏として言葉になって、すなわち名号となって、私のところに到り届いておられるのです。その名号には仏の徳のすべてが込められています。ですから、お念仏申すということは、仏が私と一緒におられるということです。また名号とは、仏の名前であるとともに、仏の名のりであるといわれます。こうして、声となって喚んでいてくださるのが名号です。

本願成就の名号と呼ばれ、本願によってできあがった名号ですから、名号のいわれを聞くということは、本願のいわれを聞くといっても同じことです。冒頭に掲げられている「如来のちかいの御な」とある文によっても、誓いと御名（名号）のその意が理解されるところです。

（本願寺出版社刊「大乗」誌掲載
『月々のことば』より抜粋　転載）

仏事お休みのお知らせ

下記の日は緊急を除き、仏事は行いません。ご協力をお願いします。

◎１２月

９日（日）　終　日
１５日（土）　終　日
１６日（日）　終　日

１０月、次の金光寺門信徒の方がご往生なさいました。謹んでお悔やみ申し上げます。

２０１８年１０月　１日　満９１歳
祇園町　寺岡正光様
２０１８年１０月１９日　満８８歳
渡瀬　熊川あきみ様
２０１８年１０月２８日　満９３歳
揚　青木一義様

ホームページ開いています。
ＵＲＬ　http://konkouji.jp/
11月６日現在アクセス数　８４，３２５人

仏教名言ノート

暑さ寒さも彼岸まで

彼岸の中日である「春分の日」と「秋分の日」の気温を、京都を例に調べてみました。

春分の日の平均気温はだいたい、最高十三・四度、最低三・四度、秋分の日は最高二六・七度、最低十八・〇度ぐらいだそうです。春分の日の最高気温は秋分の日の最低気温より五度近くも低いのですね。

春と秋の彼岸では、これだけの温度差があるのに、どちらも同じように、ホッとした、なごやかな気分を感じさせてくれます。

この諺（ことわざ）は、猛々しい残暑も秋の彼岸ともなればめっきり衰え、余寒の厳しさも春の彼岸の頃には薄らぎ、やがて、しのぎやすい季節が来るよ、と囁（ささや）きます。

冷暖房完備の生活では、味わえない風情（ふぜい）ですね。

彼岸会（え）は春・秋分の日を中日として七日間勤められる、日本独自の仏事です。

聖徳太子の頃から始まったようですが、平安初期から朝廷で行われ、江戸時代には庶民の間で年中行事となりました。この諺も寛政年間に編纂（へんさん）された辞書『諺苑（げんえん）』にあるものです。

「毎年よ　彼岸の入に寒いのは」

正岡子規の名句です。

この句には、「母の詞自（おのず）から句となりて」という前書きがありますから、「彼岸だというのに寒いなあ」に対するお母さんの答えでしょう。いい雰囲気ですね。

彼岸の中日には、太陽は真西に沈みます。

彼岸になごやかさを感じるのは、厳しい暑さや寒さからの解放とともに、西へ帰る太陽を見て、安らぎを感じるからでしょうか。

お浄土は真西にあると聞きました。

（本願寺出版社発行
辻本敬順著
「仏教名言ノート」から）

住職ひとりごと

今月号の表紙の写真如何でしたか。私は可愛い笑顔で、木村和史さんとしたいと思います。

村隆之さんの三女心華ちゃんと木村七五三さんの長女柚音ちゃんの三歳のお参りでした。写真を二枚撮ったのですが、二人の笑顔のいいお写真を表紙にさせていただきました。写真の笑顔も良かったのでお返しするのですが、名前を呼ぶのに、二人とも大きな声で「ハーイ」と素直に素敵な返事をくれました。このまま天真爛漫に明るく育って欲しいなと思ったことでした。

▼先月号本欄で「ロト７」に触れたところ、多くの方から「買いたい」とのお問い合わせがありました。「買わなければ当たらない」と思いますが、「当たらないとは言葉をかけていただいたときのお答えなら」と答えました。当たる日を夢見ています。本堂改修の記事を書く日が来ないかなー。

（住職　松井卓郎）